

# インタビュー

シリーズ第3弾

## 町制施行 100周年記念特集

宇美町の歴史を見つめてこられた方々に  
スポットを当てることにしました。

**現院長先生は13代目！  
宇美町民の健康を守ってこられた山嵯御一家**



剛先生 邦子先生 富三男先生

山嵯家は、黒田藩第四代藩主黒田綱政公より御典医として黒田藩に仕え、代々外科医師として医業を営んでこられました。

明治時代に小林酒造の小林作五郎氏(代は不明)に紹介され、宇美に転院されてから今日まで、代々宇美町民の命と健康を守ってこられました。

11代目の春庵さんは、初代粕屋郡医師会会長を務められました。現院長の富三男先生は13代目です。奥様の邦子先生は永年宇美町の学校医も担当されてきました。

医院のキャッチフレーズは、「お母さんは産婦人科医が、赤ちゃんは小児科医がケアします。」です。医院では、「おっばいケア教室」や「離乳食講座」等も積極的に開催されています。

邦子先生に少子化への対応策をお聞きすると、「育メン」を増やし母親の負担を軽くしてあげること、そのためには父親が早く帰宅できるように社会全体で育児を応援する環境を作ることが大切なのは。」と語られました。

宇美町で最高齢は山嵯 操さん今年度109歳です。宇美中央1丁目にある山崎産婦人科小児科医院の院長山嵯 富三男先生のお母さまです。

操さんは大家族で生活され、その中で家族愛と「家」を守ることを大切にされてこられたそうです。操さんの長生きの秘訣は、気丈で几帳面な性格と、60歳の時に織物を習い始めて、93歳まで続けられ、着物やスーツをご自身で仕立てられるなど、好奇心旺盛で多趣味な人生を歩んでこられました。



昭和60年に宇美中央一丁目に転院した山崎産婦人科小児科医院です。この場所だけで6,000人以上の赤ちゃんが産声をあげました。



産婦人科医は、24時間・365日対応していかなくてはなりません。富三男院長はこれまで代診を使わず頑張ってきた。宇美町の産婦人科の火を消さないように、現在はご子息の剛先生と一緒に勤務にあたっておられ、頼もしい限りです。

### 議会からのお知らせ

## 議会を傍聴しませんか！

9月議会では、67名の方が傍聴に来られました。

議会は年4回(3月・6月・9月・12月)に定例議会が開かれます。役場3階の傍聴席入口で住所・氏名を記入し、ご入場ください。

次回の定例議会は、12月7日に開会予定です。

※ 詳しくは宇美町議会事務局(TEL092-934-2248)までお問い合わせください。

議会だよりへのご意見・ご感想をお待ちしております。

議会事務局のメールアドレスです。gikai@town.umi.lg.jp

### 【発行責任者】

議長 古賀 ひろ子

### 【議会広報常任委員会】

委員長 丸山 康夫

副委員長 平野 龍彦

委員 入江 政行

委員 安川 繁典

委員 南里 正秀

委員 時任 裕史